

まえがき

企業は業績だけではなく、社会や社員に対してどのように接しているのかという「企業のあり方」が問われています。いい会社の定義も「大きな会社」だけではなくなってきたり、消費者も労働者も、そして関連する方々も大切にする会社が注目を浴びています。

世の中は、以前のように会社に従属を求めるのではなく、自分らしい生き方を模索し、それを叶えることが可能な会社を探すようになっていきます。

このように働く人の気持ちや社会が変わってきた中で、会社としては利益を上げていく必要があります。どのようにすれば、利益が上がっていくのだろうかと頭を抱えていらつしやる方も多いと思います。少子高齢化の時代で、消費者数全体が減っている中、販売業やサービス業・飲食業で売り上げや利益を継続的に伸ばすことは大変です。

しかし、いい方法があります。その方法をこの書籍で紹介しています。この書籍は、会社の売り上げや利益も継続的に上げていきたいし、社員ももっと幸せになってほしいと強く願っていらつしやる方に読んでいただきたいのです。

私は製菓業、飲食業、エンターテインメント業で約30年間働いてきました。そのときに自社だけではなく、多くの他社の方々ともお話ししました。自分なりに出した結論が、「会社は土台がしっかりしていないと発展しない」ということです。「会社の土台」とは「企業理念」と「従業員」です。この2つをどのように会社に定着させていくのかということを紹介していきます。

この書籍を参考にして、従業員が生き生きと働き、その結果として売り上げ・利益が上がり、ステークホルダー（利害関係者）全員が喜んでいる会社をつくっていただければうれしい限りです。

水内 浩秀